

南半球便り（その 98）：横浜 DeNA ベイスターズ来訪

12 月 20 日

オーストラリアで野球のボールを投げる機会があるとは、夢にも思ってもいませんでした。そう、豪州で盛んなスポーツとして、クリケット、AFL、ラグビーのイメージが強かったからです。そんな土地柄で日本のプロ野球選手とじっくり懇談し、さらには始球式にまで招かれる機会がありました。今回は、その報告です。



キャンベラ・キャバルリーのメインスタジアム、MIT ナラバンダ・ボールパーク

1. キャンベラ・キャバルリー

もちろん、豪州の地にあつては、野球はメジャーなスポーツではありません。でも、この南半球便り（[その 94](#)）でご報告したとおり、侍ジャパンと国際試合をするほどの競技人口と実力があるのです。さすがスポーツ大国！

その裾野となっているのが、豪州の国内リーグ。首都キャンベラにはキャバルリー（騎兵隊）という名前のプロ・チームがあります。シドニー、メルボルン、ブリスベン、アデレード等の主要都市を回りつつ、三ヶ月にわたる 1 シーズンの間に、ホームで 20 試合、アウェイで 20 試合を重ねているとのこと。

2. ウインター・リーグとベイスターズ

日本と季節が逆転する南半球では、シーズン・インは 11 月。ちょうど日本で野球シーズンが終わる頃に豪州の野球シーズンが始まる案配です。ここに着目したのが、横浜 DeNA ベイスターズ(以下、ベイスターズ)。

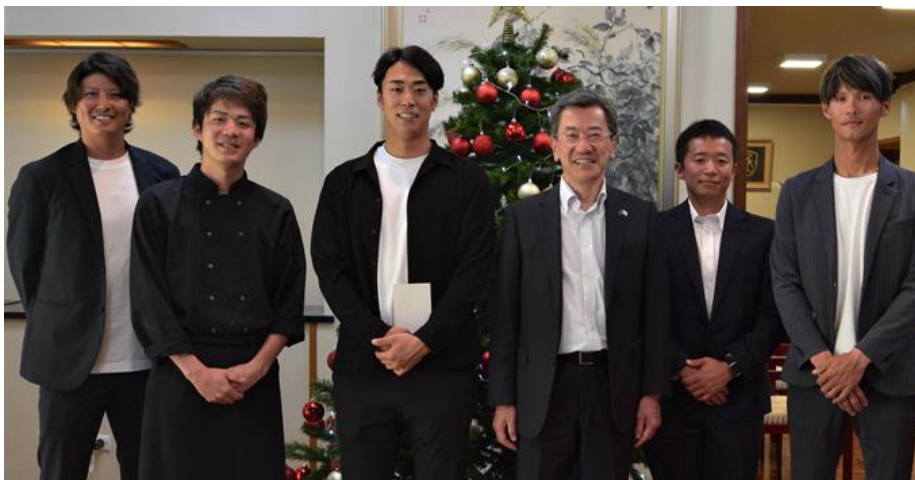
2018 年 7 月、ベ이스ターズはキャバルリーと「戦略的パートナーシップ」を締結。そして、キャバルリーに毎年選手（主として投手）を送り、日本では野球ができない冬場にキャンベラで研鑽を積むようにしているのです。数年前には、エースの今永投手も参加。伸びのある速球で強烈な印象を豪州の野球ファンに残しました。

ちなみに、ベ이스ターズだけでなく、ソフトバンクホークスも豪州メルボルンのチームに選手を派遣しています。また、日本ハム・ファイターズや読売巨人軍で活躍した陽岱鋼選手は、今、ブリスベンのチームに所属し、主軸を担っています。そして、ブリスベンの監督は、中日ドラゴンズに在籍していた怪力ディンゴ。野球ファンには懐かしい名前が並ぶのです。

3. 入江投手・宮國投手を迎えて

キャバルリーとの関係では、コロナ禍で選手派遣が中断していたのですが、ようやく今年は、入江投手と宮國投手が小杉投手コーチ、戸谷アスレティックトレーナーらと 11 月に豪州に来訪。12 月末までの予定でキャンベラに滞在しているのです。

横浜スタジアムだけではなく、懐かしい川崎球場にも大洋ホエールズ（ベ이스ターズ前身）の試合を見に行ったことのある元野球少年の私。この情報を聞きつけた途端に血が騒ぎました。早速皆さんを公邸にご招待。昼食を共にしつつ、野球談義、日豪比較に花を咲かせました。



左から宮國選手、小形シェフ、入江選手、筆者、戸谷トレーナー、小杉コーチ

糸満高校からジャイアンツを経てベ이스ターズ入りした宮國投手、作新学院、明治大学を経てセットアッパーとして活躍している入江投手。

185 センチは楽に超える上背といかにも強靱な体つき、逞しい足腰に目を奪われただけではありません。少年期からの野球への思い、プロの練習・体調管理の極意、セ・リーグのホームラン王であるヤクルト村上選手の攻略法など、話題が尽きることはありませんでした。何よりも球団広報の訓練の成果でしょうか（笑）？スポーツマンらしい爽やかな答弁ぶりに好感を持ちました。

剣道三段で体育会系の小形公邸料理人の気遣いと周到な計らいの下、スポーツ選手にはコメの料理が良いだろうということで、オージービーフを使ったステーキ丼を用意。豪州名物のシラーズワインを嗜みつつ、ステーキ丼をたいらげる食べ振りに、プロの一流選手ならではのと唸りました。

4. ジャパン・ナイト

キャバルリーでは、ベ이스ターズとのパートナーシップのため、12月16日金曜日は「ジャパン・ナイト」と呼ばれ、君が代斉唱や始球式が行われることとなりました。



Japan Night の広報画像（入江選手（左）、宮國選手（右））

（出典：[キャンベラ・キャバルリーのフェイスブック](#)）

始球式のご指名を受けて、密かに特訓を開始。とはいっても、「60肩」で腕は上がらず、硬式野球ボールは数十年間握ったことがなかったので、公邸庭の片隅でシャドー・ピッチングやキャッチボール。桐朋学園野球部での投手経験など、遙か遠い昔のことでした。

そこで、ベ이스ターズの面々が公邸に来た際にも、キャッチボール。さらに翌日にはキャバルリーのメインスタジアムを訪れ、ブルペンで投球練習をさせてもらいました。プロ野球選手に球を受けてもらうという、かつてない栄誉に力みすぎ、荒れ球の連投でした（苦笑）。



公邸で



ブルペンで



キャバルリーの選手達、入江選手、宮國選手、小杉コーチと

でも、ベ이스ターズ選手を受け入れているキャバルリー関係者から、「日本の選手は素晴らしい。野球にリスペクトをもって取り組んでいる。」との述懐を聞いたとき、球場に足を運んで本当に良かったと思いました。豪州人の対日観を大きく左右するのは、こうした「現場」での人的交流であり、ひとりひとりの日本人の生き様だからです。

当日、始球式から試合にかけては、ベ이스ターズ育成部長の桑原義行さんに丹念にご案内いただきました。日大豊山で甲子園に出場、日大でキャプテンを務め、ベ이스ターズで現役としても活躍された方。ツボを押さえた解説ぶりに感じ入りました。



キャバルリー関係者、両選手及びベ이스ターズ関係者らと

肝腎の始球式での投球ですか？

聞かないでください。ただ、還暦を超えた今なお力みすぎて球筋が定まらない投球ぶりに、思いどおりにはいかなかった自分のこれまでの人生を重ね合わせ（笑）、感慨深いものがありました。合掌。



17 日（土）に登板した宮國選手



18 日（日）に登板した入江選手

（出典：[キャンベラ・キャバルリーのフェイスブック](#)）

山上信吾